

ハンディGPSを用いたレンタカー利用観光客の観光動態調査

大内 東 [北海道大学大学院情報科学研究科／教授]
山本 雅人 [北海道大学大学院情報科学研究科／助教授]
川村 秀憲 [北海道大学大学院情報科学研究科／助手]
北山 憲武 [有限会社ソリューションテクノロジー／代表取締役]

背景・目的

観光は北海道の基幹産業であり、観光振興は北海道の経済・行政にとって重要な問題である。近年、観光旅行の形態は個人型旅行へと移行しつつあり、道外からの観光客の多くもレンタカーを利用し、自由に観光地を選択して旅行を行っている。故に、レンタカー利用の観光客の動態調査を行い、より現実の状況を踏まえた観光振興を実施していくことが、今後益々重要になってくるであろう。本研究は、道外からのレンタカー観光客に対し、ハンディGPSとアンケートを併用した動態調査を実施する。北海道における観光ネットワークの重要性を示唆し、地域連携のあり方について検討していく。

内容・方法

レンタカー観光客の動態調査を実施するにあたり、入手することが必須と考えられるデータは2種類ある。観光客の移動に関するデータと観光行動に関するデータである。移動に関するデータは、従来、パーソントリップ調査により獲得されてきた。しかし、これはアンケートに基づく事後調査の一種であり、調査対象者の時間・場所に関する記憶の曖昧さと記入の煩雑さからデータが不完全なものとなる場合が多い。そこで本研究では、可能な限り調査対象者に負担を掛けず、詳細な移動データを入手する為、ソニー製のハンディGPS(IPS-8000)をレンタカーに搭載し、旅行期間中の車両の移動時間・経路を逐次記録する手法を提案した。加えて、訪れた観光地毎に簡易なアンケートを実施して観光行動に関するデータを収集し、GPSによって得られる情報を補完することで動態調査のデータとした。最終的に、北海道におけるレンタカー観光客の動態を分析できるだけのデータが入手できた。

結果・成果

レンタカー観光客の動態調査のデータにおいて注目すべきは、その移動範囲の広さである。レンタカー移動は札幌・千歳を発着地として行われるが、富良野・美瑛・ニセコ・函館・網走・知床等、相当の遠隔地まで到達している。事例の中には、一日の移動距離が400kmに達するものも存在する。多数のレンタカー観光客が長距離運転を行っている理由としては、平成13年に

日本政策都市銀行が行った札幌～函館間の距離感に関する調査結果が挙げられる。北海道外の人々に札幌～函館間の距離を質問したところ、40%の人が50～100kmと答えている。また、200km以下と答えた人は全体の81%にも上る。このことから、北海道外のレンタカー観光客の大半は、北海道内の距離感を正しく認識しないまま旅行計画を立案し、長距離を移動しているものと推測される。今後の北海道における観光情報提供のあり方を考える際、どの様にして北海道外の人々に事前に正しい北海道内の距離感を伝達し、無理の無い旅行計画を実施させるかということが重要になる。

入手した観光動態のデータを統計的に分析していくと、レンタカー観光客の平均旅行日数は2.5日、平均移動距離は444.7km、平均移動時間は9.7時間ということが分かる。旅行日数と比べ移動時間が少ない印象を受けるが、これは実際に車を運転している正味の時間であり、停車中の時間は除かれている。また、一日あたりの平均移動距離は177.8km、平均移動時間は3.8時間となる。本分析では、レンタカーを借りた日と返却した日も旅行日数に含まれる。一日中レンタカーを運転している場合に比べ、一日あたりの平均移動距離は若干短く算出されているだろう。加えて、一日あたりの平均停車回数は6.3回、一回あたりの平均停車時間は45.1分である。レンタカー観光客が一日に訪れる観光地数は、多くても6ヶ所程度と言える。観光行動に関するアンケートによると、通りすがりに見つけた観光地を訪れているケースも少くない。ここから、レンタカー観光客を観光地に呼び込む一つの戦略として、観光客の使用頻度の高い道路上に、6ヶ所前後の観光スポット(宿泊地、レストラン含む)を一集合として、連携効果を生むゾーンとして配置することが考えられる。一つの観光スポットを訪れた観光客が連携する他のスポットも訪れる様にPRし、互いに内容が重複しない様に工夫するだけでも相当の効果が期待できるであろう。重要なのは、既存の行政区分毎の観光振興戦略に頼るのではなく、あくまでレンタカー観光客の動態に基づいた観光振興戦略を効果的に策定・実施することにある。

今後の展望

北海道における観光振興は市町村毎に実施されるのが普通で、観光地間の連携は殆んど為されていない。しかし、観光客の動態に基づき、観光地間の協力体制の下に、観光インフラの整備を充実させていくことが重要なはずである。本研究は、レンタカー観光客の動態に基づき観光ネットワークを拡充していく為の基礎的研究となり得る。レンタカー観光客の動態を調査する本提案手法が確立すれば、他県のレンタカー観光の実態を調査し、季節毎/経年的にレンタカー観光の質的変化を追跡することも可能となる。日本全国の観光活性化へ向けた貴重な見解が得られることであろう。